

令和5年11月26日（日）施行

第212回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	売 上	700	売 掛 金	700
2	手 形 貸 付 金	2,500,000	現 金	2,500,000
3	給 料	267,000	所 得 税 預 り 金	28,000
			普 通 預 金	239,000
4	前 払 金	300,000	当 座 預 金	300,000
5	当 座 預 金	20,000	仮 受 金	20,000
6	有 価 証 券	236,000	現 金	236,000
7	損 益	4,300,000	繰 越 利 益 剰 余 金	4,300,000

第2問

(ア)	期 首 資 産	¥ 615,000
(イ)	総 収 益	¥ 1,123,000
(ウ)	期 末 商 品 棚 卸 高	¥ 27,000
(エ)	売 上 総 利 益	¥ 157,000

第3問

< >の番号は伝票のNo.を示す。

現 金	
3/2 (受 取 手 形) <11> [920,000]	3/28 (未 払 金) <61> [800,000]
当 座 預 金	
	3/16 (車両運搬具) <29> [1,000,000]
受 取 手 形	
	3/2 (現 金) <11> [920,000]
車 両 運 搬 具	
3/16 (諸 口) <29> [1,800,000]	
未 払 金	
3/28 (現 金) <61> [800,000]	3/16 (車両運搬具) <29> [800,000]

第4問

小 口 現 金 出 納 帳

受 入	令 5	和 年	摘 要	支 払	内 訳				残 高
					通 信 費	交 通 費	消 耗 品 費	雑 費	
40,000	4	17	前 週 繰 越						40,000
		〃	接客用菓子代	3,300				3,300	36,700
		18	筆記用具代	2,480			2,480		34,220
		19	郵便切手代	1,160	1,160				33,060
		20	タクシー代	7,240		7,240			25,820
		21	プリンターインク代	4,800			4,800		21,020
			合 計	18,980	1,160	7,240	7,280	3,300	
18,980		21	本 日 補 給						40,000
		〃	次 週 繰 越	40,000					
58,980				58,980					
40,000	4	24	前 週 繰 越						40,000

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	230,000						230,000	
現 金 過 不 足	700			700				
当 座 預 金	305,000						305,000	
普 通 預 金	110,000						110,000	
売 掛 金	275,000						275,000	
貸 倒 引 当 金		3,600		1,900				5,500
繰 越 商 品	76,000		68,000	76,000			68,000	
備 品	240,000			60,000			180,000	
土 地	900,000						900,000	
買 掛 金		482,000						482,000
借 入 金		300,000						300,000
資 本 金		1,000,000						1,000,000
繰越利益剰余金		281,000						281,000
売 上		689,900				689,900		
受 取 地 代		32,500				32,500		
仕 入	434,000		76,000	68,000	442,000			
給 料	64,000				64,000			
広 告 費	26,000				26,000			
交 通 費	28,500				28,500			
通 信 費	18,000		13,000		31,000			
消 耗 品 費	27,100				27,100			
保 険 料	35,000			7,200	27,800			
水 道 光 熱 費	17,700				17,700			
支 払 利 息	2,000				2,000			
	2,789,000	2,789,000						
雑 損			700		700			
貸倒引当金繰入			1,900		1,900			
減 価 償 却 費			60,000		60,000			
未 払 通 信 費				13,000				13,000
前 払 保 険 料			7,200				7,200	
当 期 純 損 失						6,300	6,300	
			226,800	226,800	728,700	728,700	2,081,500	2,081,500

令和 5 年 11 月 26 日（日）施行

第 212 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 売上返品の処理

掛けで販売した商品のうち、¥700 が品違いのため返品された場合、商品販売時の仕訳の逆仕訳をおこなう。

商品販売時の仕訳

(借)	売	掛	金	□□□	(貸)	売	上	□□□
-----	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

¥700 が品違いのため返品された場合の仕訳（逆仕訳）

(借)	売	上	700	(貸)	売	掛	金	700
-----	---	---	-----	-----	---	---	---	-----

2. 現金貸し付け時の処理

現金を貸し付け時、借用証書の代用として約束手形を受け取った場合、手形貸付金勘定を用いて処理をする。

3. 給料の支払いと所得税預り金の処理

給料¥267,000 を支払う際は、給料勘定を用いて処理をし、所得税の源泉徴収額¥28,000 は、後日納付する義務であるため、所得税預り金勘定を用いて処理をする。

その源泉徴収額¥28,000 を差し引いた¥239,000 を普通預金から支払う。

普通預金口座から口座振込で支払った額 $¥267,000 - ¥28,000 = ¥239,000$

源泉徴収とは、会社が従業員へ給料を支払う際に本来従業員自身が納める所得税額を従業員から一時的に預かり、後日まとめて納付する方法である。

4. 内金支払い時の処理

商品購入の契約を結び、内金を支払った場合は、前払金勘定を用いて処理をする。

その内金の支払いについては、小切手を振り出して支払ったとあるので、当座預金勘定を用いて処理をする。

5. 内容不明の振り込みがあった場合の処理

内容が不明の振り込みがあった場合、一時的に仮受金勘定を用いて処理をする。

後日、内容が判明した場合は、仮受金勘定から適切な勘定口座へ振り替える処理をする。

6. 株式購入時の処理

株式を購入した場合、有価証券勘定を用いて処理をする。

株式購入時の証券会社に対する購入手数料¥5,000 は付随費用として有価証券勘定の取得原価に含めて処理をする。

高知商事株式会社の株式 取得原価 $= @ ¥770 \times 300 \text{ 株} + ¥5,000 = ¥236,000$

購入手数料とともに現金で支払ったとあるので、現金勘定を用いて処理をする。

7. 決算振替仕訳

当期決算において、当期純利益が算定された場合は、損益勘定の貸方から繰越利益剰余勘定の貸方へ振り替える処理をする。当期純損失が算定された場合は、損益勘定の借方から繰越利益剰余金勘定の借方へ振り替える処理をする。

第2問

各金額の算定 求めることのできる空欄から求めていく。

① 期首資産（ア）

期首純資産＝期末純資産－当期純利益

期首純資産＝¥322,000－¥77,000

期首純資産＝¥245,000

期首資産（ア）＝期首負債＋期首純資産

期首資産（ア）＝¥370,000＋¥245,000

期首資産（ア）＝¥615,000

① 総収益（イ）

総収益（イ）＝総費用＋当期純利益

総収益（イ）＝¥1,046,000＋¥77,000

総収益（イ）＝¥1,123,000

② 期末商品棚卸高（ウ）

期末商品棚卸高（ウ）＝期首商品棚卸高＋純仕入高－売上原価

期末商品棚卸高（ウ）＝¥22,000＋¥836,000－¥831,000

期末商品棚卸高（ウ）＝¥27,000

② 売上総利益（エ）

売上総利益（エ）＝純売上高－売上原価

売上総利益（エ）＝¥988,000－¥831,000

売上総利益（エ）＝¥157,000

第3問

各伝票について取引の仕訳をする。

令和5年3月2日 入金伝票 No. 11

(借) 現	金	920,000	(貸) 受	取	手	形	920,000
-------	---	---------	-------	---	---	---	---------

令和5年3月16日 振替伝票 No. 29

(借) 車	両	運	搬	具	1,800,000	(貸) 当	座	預	金	1,000,000
							未	払	金	800,000

令和5年3月28日 出金伝票 No. 61

(借) 未	払	金	800,000	(貸) 現	金	800,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

以上の仕訳を各勘定口座（Tフォーム）へ転記する。

第4問

支払欄・内訳欄に記入する。

4月	17日	(月)	接待用菓子代	¥3,300	→	雑費
	18日	(火)	筆記用具代	¥2,480	→	消耗品費
	19日	(水)	郵便切手代	¥1,160	→	通信費
	20日	(木)	タクシー代	¥7,240	→	交通費
	21日	(金)	プリンターインク代	¥4,800	→	消耗品費

定額資金前渡制（インプレスト・システム）により毎週金曜日の終業時にその週の支払いを報告し、資金の補給を受けているので、4月17日（月）～4月21日（金）までの上記支払い額の合計¥18,980を「21日 本日補給」の行の受入欄に記入し、残高欄に¥40,000を記入する。21日の残高¥40,000は、翌週の繰り越し分となるので「次週繰越」の行の支払欄に¥40,000を記入する。受入欄と支払欄の合計は一致し、¥58,980を記入する。
4月24日 前週繰越の行の受入欄に¥40,000、残高欄に¥40,000を記入する。

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は¥76,000※

※【解答用紙】精算表内の残高試算表を参照 繰越商品勘定（借方残高）

(借)	仕	入	76,000	(貸)	繰	越	商	品	76,000
		繰	越			仕	入		68,000
		商	品						

2. 貸倒引当金の計上

売掛金残高の2.0%の貸倒れを見積もるので

引当金設定の計算 $¥275,000※ \times 2.0\% = ¥5,500$

※【解答用紙】精算表内の残高試算表を参照 売掛金（借方残高）

差額補充法により処理するので

繰入額の計算 $¥5,500 - ¥3,600※ = ¥1,900$

※【解答用紙】精算表内の残高試算表を参照 貸倒引当金勘定（貸方残高）

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	1,900	(貸)	貸	倒	引	当	金	1,900
-----	---	---	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	---	---	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は、¥300,000※

※【問題用紙】決算整理事項3.を参照 備品は前期首に¥300,000で購入し、直ちに使用に供したものの

年間の減価償却費の計算 $¥300,000 \div 5 \text{年}※ = ¥60,000$

※【問題用紙】決算整理事項3.を参照 耐用年数5年、残存価額はゼロと見積もられている

問題文より、直接法により記帳しているので、備品勘定から直接控除する。

(借)	減	価	償	却	費	60,000	(貸)	備	品	60,000
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

4. 現金過不足の処理

現金過不足の借方残高¥700※は、原因不明につき、雑損として処理するとあるので、現金過不足勘定から雑損勘定へ振り替える処理をする。

※【解答用紙】精算表内の残高試算表を参照 現金過不足勘定（借方残高）

(借)	雑	損	700	(貸)	現金過不足	700
-----	---	---	-----	-----	-------	-----

5. 通信費の未払い

当期の決算時において未払いである通信費¥13,000 は当期に属する費用であるため、当期の費用として見越計上の処理をする。

(借)	通	信	費	13,000	(貸)	未払通信費	13,000
-----	---	---	---	--------	-----	-------	--------

6. 保険料の前払い

保険料のうち¥7,200 は次期に属する費用であるため、次期の費用として繰延計上の処理をする。

(借)	前	払	保	険	料	7,200	(貸)	保	険	料	7,200
-----	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	-------